平成 24 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100675		
法人名	(有)在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホーム奄美	ユニット名	1F
所在地	静岡県沼津市本郷町38-6		
自己評価作成日	平成25年3月1日	評価結果市町村受理日	平成25年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2271100675-00&PrefCd=22&VersionCd

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4－1
訪問調査日	平成25年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれ家庭的な環境の下、広い庭を活かし季節の花や野菜を育て、収穫をする楽しみを感じて頂いています。毎月、四季を感じて頂ける外出や、行事または、近隣のお店での外食を実施しています。誕生日には、利用者様のご希望を伺い、馴染みの場所への訪問や、ご家族との外出を楽しんで頂いております。地域や近隣の皆様と助け合い暮らしていいけるように積極的に活動しております。一人ひとりの個性と価値観を尊重しながら生活の中で、役割や出番を発揮できるように支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

沼津市香貫山の麓の静かな環境に、法人ふれあいグループの第1号グループホームとして誕生し、10周年を迎えようとしている。法人全体の 「敬愛・創造・貢献」や 「仕事の約束5ヶ条」・「介護の約束5ヶ条」を受けてホーム独自の理念を定め、その理念を毎月の目標への細分化・毎日の唱和・毎月の達成度の反省を繰り返し、利用者本位の介護・支援の向上に取り組んでいる。近隣・行政・家族との連携もできており、地域密着型に相応しい運営が行われている。基本となるケアプランや医療連携もできており、家族アンケートでこのホームや職員への感謝の気持ちが多数寄せられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に、出勤スタッフ全員で理念の「そっと寄り添い共に生きる」また、毎月の目標を唱和し、確認、実施に努め、目標達成率等を個々で振り返っています。	法人の「敬愛・創造・貢献」を受けて、ホーム独自の「そっと寄り添い共い生きる」の理念を定め、それを毎月の目標にブレークダウン（細分化）し、毎朝唱和により共有化して実行するとともに、毎月その結果の反省も行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所開催の行事案内を回覧板等で行い、参加を呼びかけ、自治会会合に参加し、行事(土手掃除、防災訓練)に積極的に参加しています。地域中学生の職業体験の受け入れ、地区文化祭への作品等の展示を行っております。	自治会会合への参加やホーム行事の回覧板での周知等を通じ、各種の行事に地域とホーム夫々が相互に参加し、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事の際、相談を受け説明している。施設見学にいらっしゃる方には、気軽に施設での暮らしを見学して頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、運営推進会議を開催し活動報告、行事報告、日常の暮らしなどスライド写真を用いて知って頂いています。今後の課題や提案を検討する機会になっております。	運営推進会議は、然るべき内容・然るべき出席者のもとに、2ヶ月に1回着実に開催されている。会の運営にも工夫が凝らされており、特に毎回利用者全員が同席する等で、年間延べ200人の参加者があり、賑やかな会になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の方が、月に一回来所されます。また2か月に一度のGH連絡会議に参加させて頂き、他の事業所、沼津市長寿介護課、包括支援センターの方々と意見交換ができとても助かっています。	市の長寿介護課・地域包括支援センター等との連携がよく、毎月介護相談員も来てくれて、協力関係が築かれている。毎月グループホーム連絡会議も開催され、意見交換や情報交換も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングを通じてスタッフ全員が理解し共有している。玄関は構造上自動ロックが掛かるが、出来る限り希望に添えるように努めている。	0宣言を発し、マニュアルも完備し、内部研修も行って、対象となる具体的禁止行為を正しく理解している。今月は 「利用者にダメと言わない」 を目標として定め、活動していた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	介護時の言葉かけ、支援方法などについて虐待とならぬようにミーティングで徹底しています。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用されている方がいらっしゃいます。職員を外部研修等に参加させ学ぶ機会を今後も設けて行きたい。また、ご相談頂いた場合は、意向に添えるようにご協力させて頂きます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、訪問面接を行い、入居時には契約書面を読み合わせ、説明をさせて頂いております。分からない事がある時には、随時問い合わせにお答えし、理解して頂けるよう努めております。解約時にも説明を行っております。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、また面会簿に意見記入欄を設けています。また介護相談員を通じて受けた利用者様の声やご家族の声を、運営に反映させるように努めております。	訪問時や日常の触れ合い・運営検討会等を通じて利用者や家族の意向の把握に努めている。また、意見箱・面会簿のご意見欄や介護相談員を通じた声を運営に反映させる努力をしている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談、または気軽に意見交換のできるミーティングを開催し、職員の意見、提案を反映する機会を設け、記録に個々の意見が記入できるよう工夫されている。またその内容によっては、管理者ミーティングに提案しています。	職員は、自由に意見を表現する雰囲気や機会があり、ミーティングも活発である。また、普段の観察や年1回の個人面談で意見を吸収し、ホームの運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績、勤務状況など、毎月代表者に報告、把握できるように状態にあり、年2回会社より個人評価表をもとに、評価が行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や外部研修の情報を周知、受講者の為のシフト調整などを行っている。受講したものには、ミーティングにて時間を設けスタッフ皆で共有し実践に役立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会や事例検討会に参加させて頂き、意見交換、相談などの機会を頂き、近隣事業所への見学、運営推進会議への参加も積極的に行っております。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前アセスメントにより、スタッフ間でのサービスの提供等を決め、自己決定や自立支援を行ううえで、観察やコミュニケーションに努め安心して頂けるような雰囲気作りを心掛けております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前、ご家族にご本人が何を希望しているのか、どのような支援を行って行う事ができるのか、傾聴しホームでの生活に馴染んで頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、ケアマネ、ご本人とご家族のご理解頂ける説明を心掛けている。初期対応の見極めをしたうえで、専門用語をさけ、分かりやすい説明に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にもある様に、出来る力を引き出し、自立支援を心掛けている。調理、清掃等、その方の心身状況に応じて、行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力を頂き、家族との団欒、墓参り、外食、外泊及び、行きつけの美容院などの付添いをお願いしています。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得たり、施設行事での外出時、BD企画等、馴染みの人や場所のドライブ、会食等を意図的に計画し、実施しています。	利用者のバースデイ企画やホーム行事、またご家族の協力等で、馴染みの人・場所・物との関係が途切れないように、ドライブや会食等でフォローしている。簡単な神棚を作って落ち着いた利用者もいた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や人柄生活等を考慮し、共同生活の場での席に配慮したり、日常生活が楽しく過ごせるように心がけ支援しております。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族にも行事などのお知らせを行い。いつでも立ち寄れる雰囲気作りを心掛けております。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時(見直し含む)ご本人とご家族に説明ご希望を伺います。日々の会話の中から思いをくみ取る様に努めています。利用者様本位の考えに立ち、意向を把握するよう努めています。	長い年月の経過観察から、利用者個々の意向や家族の思い・暮らし方の希望などを良く把握している。本人本位に検討した事項を記録し、全職員がその情報を共有できる仕組み作りが出来ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、センター方式シートを依頼、ご家族より情報を頂きます。面会時は承諾を得た上で生活歴等を伺います。日々の生活の中からスタッフの得た情報は記録され報告されます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別援助に努める為、基本的には利用者様の自由な暮らしを支援する。各自の生活は見守られ一日の記録がされる。特別な事項は朝夕の申し送り等で全スタッフに周知、把握されるようにしている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の希望を伺うと共に必要時には、カンファレンスを行います。スタッフ参加で必要時には関係者の意見を反映します。利用者様をチームで支える計画作りに努めています。	改善への支援の試みと検討を繰り返し作成している。無気力な様子から変化し、意欲を引き出した支援等常.に利用者の状況把握に努めている。記録や職員の聞き取った内容と評価に基づいて6ヶ月ごとに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の実践に努めています。支援の証し、利用者様の生きる証しと共に、スタッフ間の統一ケアにより、より良い支援を目指しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の協力を頂く通院の付添い買い物、衣類入れ替え等に不可能な利用者様には、柔軟な対応をさせて頂いています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買物への同行、地域防災訓練への参加、毎年中学生の職業体験や看護学生の実習受け入れ、を行い交流に努めています。また、敬老会には近隣幼稚園の訪問があり、利用者様の楽しみの一つでもあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、医療機関の確認をし、ホームの医療連携の説明をご本人、ご家族に行っている。医療連携として毎月2回の往診、急変時の対応、巡回看護士への連絡。又、歯科は2回の往診と、毎週のブラッシングの実施を行って頂いております。	内科医・歯科医が月2回、看護師は週2回の訪問があり、健康についての管理対応をしている。医師と職員との信頼関係の構築により、連絡を取り合いながら服薬をできる限り減らしていくよう取組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に数回、巡回看護士が来られ健康チェックを行い緊急時には協力医が、24時間体制で連絡対応が可能であります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に医師、看護士、ソーシャルワーカー等から情報収集し、状況の把握、メンタル面などに考慮し退院に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、終末期について事業所でできる事、できない事を含めてご家族にご説明をし、意向を書面に記入して頂き、状況の変化時には、再記入して頂くようにしております。	看取り介護についての指針を定め、入居時に利用者・家族の意向や思いを聞き取り同意を得ている。また、実際に重度化した場合も改めて家族と話し合い、できる事に取り組み医療関係者の指導のもと状況に合わせた柔軟な支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命や緊急時の対応等の講習を受けたり事故時の協力体制についてマニュアルを常に確認しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の火災・地震発生時の防災訓練を行い、マニュアルを完備しております。毎月2回の伝言ダイヤル訓練又、地域の防災訓練にも参加しております。	定期的に通報・避難・消火・夜間連絡訓練等を実施し、積極的に取り組んでいる。防災用備品も1階倉庫に保管し、利用者の安全に努め、近隣の住民には訓練に参加してもらい、防災時の関係作りを進めている。	

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊敬する言葉かけを心掛け、生活史を考慮し、その方が一番輝いていた人柄を認める対応に心掛けています。	家族と利用者から知り得た情報は全職員の守秘義務として浸透している。自分に置き換えて考えることを必要として、たばこを吸う人への配慮や外出傾向のある人には付き添い散歩するなど、利用者本位に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフと2人になれる時間を作り、会話の中からご本人の思いや希望を伺い、全スタッフで利用者様の思いを共有し、ご自分から自己決定できるよう支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	休憩したい方は、居室で休まれたり、個々のペースに合わせて一日を過ごしている。日課はあるが、無理強いせず一人ひとりのペースを尊重している。又利用者様に興味を持って頂けるよう支援に努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院を利用される方への各々の支援と共に、訪問理容を手配し利用して頂きます。又、髪型は自己決定を尊重し、それに添った支援(長髪希望の方には髪結い等の支援)に努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきや米とぎ、食器の片づけを一緒に行っている。また、包丁を見守りで使って頂いたり、野菜を手でちぎって頂いたり、それぞれのできる事をやって頂き、献立には、利用者様の希望を反映するよう努めております。	ユニットごとにその日に食べたい希望に沿ったメニューや誕生日などの特別食・外食・出前等楽しむ工夫をしている。ホームで採れた野菜を取り入れたり、職員と一緒に準備・片付けを行い、意欲の増進につながっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量の記録記入や、個々に応じた適量の食事や水分の提供、又食事量の制限のある方には、食器の工夫を行い、障害のある方には、キザミやとろみで食べやすい工夫をしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ADLに応じた口腔ケアを行い、夜間は義歯洗浄を行っております。1ヶ月に2度歯科往診をして頂き、必要な方は、毎週のブラッシングケアを実施。その都度、口腔ケアの指導を頂いております。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意のある方は、自立支援を心掛けております。排泄表を活用し、間隔」パターンを把握しスムーズな誘導を心掛け失敗により自尊心を傷つけないよう配慮し、安易にオムツは使用せず、入院等で使用されていた方でもリハビリパンツ使用まで回復していただくよう努めております。	職員は各人の習慣や排泄パターンを把握している。本人の行動を見て排泄のサインをとらえ、自尊心に配慮しながら誘導している。トイレの誘導やパットの種類を変えてみたりして改善に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食物、水分強化、牛乳の摂取など、飲食物の工夫を個別で行っております。家事活動、レク活動等、身体を動かす働きかけを行い、入浴時のマッサージ等も心掛けております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な曜日は決まっておりますが、ご本人の希望により自由に入って頂いております。	入浴時間や回数を限定せず、本人の希望で入浴介助を実施している。無理をしない対応や、不安が軽減できるよう声かけにも気をつけて、誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は決めず、夜間は温かい飲み物を提供し、ご希望の方には、湯たんぽの提供を行い、リラックスして入眠して頂けるよう努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルには、処方箋を掲示し、服薬チェック表を活用しております。薬の変更時には申し送りで伝えられ、申し送り帳に記載しております。又、社内研修の薬学講座等で、スタッフは知識向上に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時、又はご家族面談の際、ご本人からの会話より出来る力を探り出し、引き出すように努めております。職員が得た情報は介護記録に記し、ミーティングで報告、ケアプランに活かしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い暖かい日は、戸外に出るよう心掛けており、買い物や散歩の要望には、出来る限り実施するよう努めております。BD企画では、ご本人の希望を伺い外出を含め実現している。	ウッドデッキから広い庭に続いていて、日常的にいつでも外に出られる環境がある。季節ごとの外出やお弁当を持って公園、図書館での作品展示、敬老会や秋祭り、他ホームへの訪問など利用者の希望を取り入れた外出支援が頻繁に行われている。	適切な外出計画が組まれているが、各計画を「季節計画」・「地域計画」・「ホーム計画」に層別して計画することも検討されたい。

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人のご要望により、ご家族様と相談しながら、買い物など楽しまれています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、気持ちを尊重し、電話の取次ぎや手紙の投函などお手伝いさせて頂いております。また季節のお便り等も行い、携帯電話を所持されている方もいらっしゃり、自由に電話をかけていらっしゃる方もあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の改善に可能な限り努めています。年間行事に合わせ四季を感じて頂くように施設内での果物や野菜の収穫、施設周辺でも花作りをしています。また写真の掲示も楽しめるように工夫をしています。	開花や収穫の楽しみもある広い庭は、季節の変化が感じられ気軽に集う憩いの場所となっている。1階と2階と自由に行き来きでき、廊下にも四季折々の職員と一緒に完成させた作品や、行事や外出の写真が飾られ、訪れる家族との交流の話題となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂リビングには、ソファーがあり、自由に座りくつろがれたり、窓付近に椅子を持ち合い、日光浴をしながら集いの場となることもある。1・2階自由な行き来もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人に取って大切な物や馴染みの物は、出来るだけ多くご家族にお願いして持ってきていただいております。	職員は高齢者の嗜好を良く理解し、精神面の安定を図り、習慣や在宅生活の継続であるよう支援している。使い慣れた家具や調度品が持ち込まれており、各部屋共に、その人らしい生活空間が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部にはなるべく障害物を置かないようにし、また居室内のベッドやタンスの位置などをご本人と相談して動きやすいように工夫しております。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100675		
法人名	(有)在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホーム奄美	ユニット名	2F
所在地	静岡県沼津市本郷町38-6		
自己評価作成日	平成25年3月1日	評価結果市町村受理日	平成25年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2271100675-00&PrefCd=22&VersionCd

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社　福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町４－１
訪問調査日	平成25年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれ家庭的な環境の下、広い庭を活かし季節の花や野菜を育て、収穫をする楽しみを感じて頂いています。毎月、四季を感じて頂ける外出や、行事または、近隣のお店での外食を実施しています。誕生日には、利用者様のご希望を伺い、馴染みの場所への訪問や、ご家族との外出を楽しんで頂いております。地域や近隣の皆様と助け合い暮らしていいけるように積極的に活動しております。一人ひとりの個性と価値観を尊重しながら生活の中で、役割や出番を発揮できるように支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※　複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に、出勤スタッフ全員で理念の「そっと寄り添い共に生きる」また、毎月の目標を唱和し、確認、実施に努め、目標達成率等を個々で振り返っています。	※　複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所開催の行事案内を回覧板等で行い、参加を呼びかけ、自治会会合に参加し、行事(土手掃除、防災訓練)に積極的に参加しています。地域中学生の職業体験の受け入れ、地区文化祭への作品等の展示を行っております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	営推進会議や行事の際、相談を受け説明している。施設見学にいらっしゃる方には、気軽に施設での暮らしを見学して頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、運営推進会議を開催し活動報告、行事報告、日常の暮らしなどスライド写真を用いて知って頂いています。今後の課題や提案を検討する機会になっております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の方が、月に一回来所されます。また2か月に一度のGH連絡会議に参加させて頂き、他の事業所、沼津市長寿介護課、包括支援センターの方々と意見交換ができとても助かっています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングを通じてスタッフ全員が理解し共有している。玄関は構造上自動ロックが掛かるが、出来る限り希望に添えるように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	介護時の言葉かけ、支援方法などについて虐待とならぬようにミーティングで徹底しています。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用されている方がいらっしゃいます。職員を外部研修等に参加させ学ぶ機会を今後も設けて行きたい。また、ご相談頂いた場合は、意向に添えるようにご協力させて頂きます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、訪問面接を行い、入居時には契約書面を読み合わせ、説明をさせて頂いております。分からない事がある時には、随時問い合わせにお答えし、理解して頂けるよう努めております。解約時にも説明を行っております。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、また面会簿に意見記入欄を設けています。また介護相談員を通じて受けた利用者様の声やご家族の声を、運営に反映させるように努めております。		
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談、または気軽に意見交換のできるミーティングを開催し、職員の意見、提案を反映する機会を設け、記録に個々の意見が記入できるよう工夫されている。またその内容によっては、管理者ミーティングに提案しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績、勤務状況など、毎月代表者に報告、把握できるように状態にあり、年2回会社より個人評価表をもとに、評価が行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や外部研修の情報を周知、受講者の為のシフト調整などを行っている。受講したものには、ミーティングにて時間を設けスタッフ皆で共有し実践に役立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会や事例検討会に参加させて頂き、意見交換、相談などの機会を頂き、近隣事業所への見学、運営推進会議への参加も積極的に行っております。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前アセスメントにより、スタッフ間でのサービスの提供等を決め、自己決定や自立支援を行ううえで、観察やコミュニケーションに努め安心して頂けるような雰囲気作りを心掛けております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前、ご家族にご本人が何を希望しているのか、どのような支援を行って行う事ができるのか、傾聴しホームでの生活に馴染んで頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、ケアマネ、ご本人とご家族のご理解頂ける説明を心掛けている。初期対応の見極めをしたうえで、専門用語をさけ、分かりやすい説明に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にもある様に、出来る力を引き出し、自立支援を心掛けている。調理、清掃等、その方の心身状況に応じて、行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力を頂き、家族との団欒、墓参り、外食、外泊及び、行きつけの美容院などの付添いをお願いしています。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得たり、施設行事での外出時、BD企画等、馴染みの人や場所のドライブ、会食等を意図的に計画し、実施しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や人柄生活等を考慮し、共同生活の場での席に配慮したり、日常生活が楽しく過ごせるように心がけ支援しております。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族にも行事などのお知らせを行い。いつでも立ち寄れる雰囲気作りを心掛けております。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時(見直し含む)ご本人とご家族に説明ご希望を伺います。日々の会話の中から思いをくみ取る様に努めます。利用者様本位の考えに立ち、思いをくみ取ります。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、センター方式シートを依頼、ご家族より情報を頂きます。面会時は承諾を得た上で生活歴等を伺います。日々の生活の中からスタッフの得た情報は記録され報告されます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別援助に努める為、基本的には利用者様の自由な暮らしを支援する。各自の生活は見守られ一日の記録がされる。特別な事項は朝夕の申し送り等で全スタッフに周知、把握されるようにしている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の希望を伺うと共に必要時には、カンファレンスを行います。スタッフ参加で必要時には関係者の意見を反映します。利用者様をチームで支える計画作りに努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の実践に努めています。支援の証し、利用者様の生きる証しと共に、スタッフ間の統一ケアにより、より良い支援を目指しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の協力を頂く通院の付添い買い物、衣類入れ替え等に不可能な利用者様には、柔軟な対応をさせて頂いています。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買物への同行、地域防災訓練への参加、毎年中学生の職業体験や看護学生の実習受け入れ、を行い交流に努めています。また、敬老会には近隣幼稚園の訪問があり、利用者様の楽しみの一つでもあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、医療機関の確認をし、ホームの医療連携の説明をご本人、ご家族に行っている。医療連携として毎月2回の往診、急変時の対応、巡回看護士への連絡。又、歯科は2回の往診と、毎週のブラッシングの実施を行って頂いております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に数回、巡回看護士が来られ健康チェックを行い緊急時には協力医が、24時間体制で連絡対応が可能であります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に医師、看護士、ソーシャルワーカー等から情報収集し、状況の把握、メンタル面などに考慮し退院に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に、終末期について事業所でできる事、できない事を含めてご家族にご説明をし、意見を書面に記入して頂き、状況の変化時には、再記入して頂くようにしております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命や緊急時の対応等の講習を受けたり事故時の協力体制についてマニュアルを常に確認しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の火災・地震発生時の防災訓練を行い、マニュアルを完備しております。毎月2回の伝言ダイヤル訓練又、地域の防災訓練にも参加しております。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、尊敬する言葉かけを心掛け、生活史を考慮し、その方が一番輝いていた人柄を認める対応に心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフと2人になれる時間を作り、会話の中からご本人の思いや希望を伺い、全スタッフで利用者様の思いを共有し、ご自分から自己決定できるよう支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	休憩したい方は、居室で休まれたり、個々のペースに合わせて一日を過ごしている。日課はあるが、無理強いせず一人ひとりのペースを尊重している。又利用者様に興味を持って頂けるよう支援に努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院を利用される方への各々の支援と共に、訪問理容を手配し利用して頂きます。又、髪型は自己決定を尊重し、それに添った支援(長髪希望の方には髪結い等の支援)に努めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきや米とぎ、食器の片づけを一緒に行っている。また、包丁を見守りで使って頂いたり、野菜を手でちぎって頂いたり、それぞれのできる事をやって頂き、献立には、利用者様の希望を反映するよう努めております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量の記録記入や、個々に応じた適量の食事や水分の提供、又食事量の制限のある方には、食器の工夫を行い、障害のある方には、キザミやとろみで食べやすい工夫をしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ADLに応じた口腔ケアを行い、夜間は義歯洗浄を行っております。1ヶ月に2度歯科往診をして頂き、必要な方は、毎週のブラッシングケアを実施。その都度、口腔ケアの指導を頂いております。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意のある方は、自立支援を心掛けております。排泄表を活用し、間隔」パターンを把握しスムーズな誘導を心掛け失敗により自尊心を傷つけないよう配慮し、安易にオムツは使用せず、入院等で使用されていた方でもリハビリパンツ使用まで回復していただくよう努めております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食物、ヨーグルト、オリゴ糖の提供、水分強化、牛乳の摂取など、飲食物の工夫を個別で行っております。家事活動、レク活動等、身体を動かす働きかけを行い、入浴時のマッサージ等も心掛けております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な曜日は決まっておりますが、ご本人の希望により自由に入って頂いております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は決めず、夜間は温かい飲み物を提供し、ご希望の方には、湯たんぽの提供を行い、リラックスして入眠して頂けるよう努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルには、処方箋を掲示し、服薬チェック表を活用しております。薬の変更時には申し送りで伝えられ、申し送り帳に記載しております。又、社内研修の薬学講座等で、スタッフは知識向上に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時、又はご家族面談の際、ご本人からの会話より出来る力を探り出し、引き出すように努めております。職員が得た情報は介護記録に記し、ミーティングで報告、ケアプランに活かしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い暖かい日は、戸外に出るよう心掛けており、買い物や散歩の要望には、出来る限り実施するよう努めております。BD企画では、ご本人の希望を伺い外出を含め実現している。		

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人のご要望により、ご家族様と相談しながら、お金を所持されている方もいらっしゃり、ご希望に応じて、買い物など楽しまれています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、気持ちを尊重し、電話の取次ぎや手紙の投函などお手伝いさせて頂いております。また季節のお便りなども行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の改善に可能な限り努めています。年間行事に合わせ四季を感じて頂くように施設内での果物や野菜の収穫、施設周辺でも花作りをしています。また写真の掲示も楽しめるように工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ソファーがあり、自由に座りくつろがれたり、1・2階自由な行き来もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人に取って大切な物や馴染みの物は、出来るだけ多くご家族にお願いして持ってきていただいております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部にはなるべく障害物を置かないようにし、また居室内のベッドやタンスの位置などをご本人と相談して動きやすいように工夫しております。		